

質問

質問事項1：第二波・第三波に備え、PCR検査センターの更なる充実を

質問要旨：

新型コロナウイルスの感染が広がる中で、多くの方が大きな不安に駆られました。発熱患者や新規患者の受診を断る医療機関も多数あり、「発熱しても受診すらできない」ことへの不安。PCR検査体制の整備が遅れ、必要な人が検査も受けられないことへの不安。陽性と判定されても入院先が確保できないことへの不安。自宅待機中に急変して、誰にも看取られずに死んでしまうのではないかと不安などが大きかったように感じています。そのような中で吉川松伏医師会のご尽力の元、5月22日からPCR検査センターが設置されたことを嬉しく思っています。

- ① センターの稼働状況を教えてください。
- ② 高齢世帯など車のないご家庭の方々から、万が一発熱などの症状があった時、センターまでの足をどのように確保したら良いのか、タクシーに乗せてもらえるのかとの不安の声が寄せられています。
対策が必要と考えます。どのようにお考えでしょうか。
- ③ 第二波・第三波の襲来を多くの専門家が予測しています。現在は週2回1時間程度、1日10件までの検査が可能とされています。今後検査が必要な人が増えた折には、センターのオープン時間や可能検査件数などは柔軟に対応していただけるのでしょうか。
- ④ 発熱の原因はコロナウイルス感染とは限りません。発熱した市民が断られることなく医療を受けることができ、疾病に応じた治療につなげることができ、医療従事者の感染を予防するためにも検査センターへの発熱外来の併設が重要と考えます。どのようにお考えでしょうか。
- ⑤ センターの場所については非公表と伺っています。公表するべきと考えますが、市の見解を教えてください。
- ⑥ 共産党議員団は4月6日提出の要望書で、「発熱者専用臨時受診センター」の設置を要望しました。市では4月20日に近隣市とのPCR検査センター情報交換会、22日には吉川松伏医師会との設置検討会を行っています。が、設置までには1カ月を要しました。
なぜこんなにも時間がかかったのでしょうか。設置までの経過を、場所や費用などの検討も含め詳しく教えてください。

答弁を求める者：市長・担当部長

回答

1 センターの稼働状況について

5月22日から火曜日と金曜日の週2回開設し、6月9日時点で16人の方の検査を行ったところでございます。

2 車のない家庭のセンターまでの交通手段について

当検査センターは、保健所の行政検査機能がひっ迫し、必要な検査を実施することができなくなることを防ぐために設置されているものでございます。

そのため検査の実施方法や対象者等につきましては、地域の状況などに応じて判断されております。当検査センターにつきましては、感染リスクを極力低減するため自家用車での来場に限定しておりますが、自家用車での来場が困難な方につきましては、かかりつけ医から保健所にご相談いただいているところです。

3 検査センターのオープン時間や検査件数の柔軟な対応について

今後、感染症のまん延状況に注視しながら、必要に応じて設置者である吉川松伏医師会と協議を行ってまいります。

4 検査センターへの発熱外来の併設について

5 検査センターの場所の公開について

検査センターでの検査につきましては、発熱等の症状をかかりつけ医が診察し、検査が必要と診断された方を対象に実施されておりますことから、発熱患者の受診体制の構築に資しているものと認識しております。

このようにPCR検査センターでの検査は希望者に対して検査を行うものではないことやプライバシー保護が重要であることに加え、検査を求める者が集中し、円滑な検査の実施が阻害される恐れがあることから、原則非公開とするとの国の通知も踏まえ、場所は、非公開としているところです。

6 検査センター設置までの経過について

4月20日に近隣市と情報交換を行い、同月22日に吉川松伏医師会及び松伏町と検査会場の場所や検査方法の検討を進め、同月30日に埼玉県が県内郡市医師会に説明会を開催しました。

その後、他市の検査センターを視察し、吉川松伏医師会及び松伏町との連携のもと、施設の修繕、必要な備品や消耗品の購入、医師・看護師・受付など従事する人員の手配、感染症対策講習会、リハーサル等を行い、新たな保険適用医療機関として吉川松伏医師会が速やかに開設したものです。

次に場所につきましては、検査会場の施設等の準備期間、天候等の影響を受けにくい、適切な方法による検査の実施が可能であることや、患者が他者と接触する機会がないことなどを考慮して選定したものです。

また、費用の検討につきましては、吉川松伏医師会が埼玉県からの委託料による運営を原則としながら、速やかな開設並びに円滑な運営のために必要な支援を当市及び松伏町で行うことといたしました。

担当：健康長寿部健康増進課

質問

質問事項2：子どもたちの「楽しみな活動」を大切に、「人格形成」を重視した教育活動を

質問要旨：

全国学力テストが中止になったにも関わらず、県教育委員会が毎年春に実施している県学力・学習状況調査が、今年も多く自治体の小中学校で実施されることが明らかになりました。参加するか否かは、各自治体の判断とされています。新型コロナウイルスの問題で長期間休校になった影響で授業時間が不足する中で実施することに、疑問の声も多く寄せられています。越谷市や八潮市は不参加の方向で、八潮市教育委員会の担当者は「調査も大切だが、まずは休校となった4～5月分の指導をしっかりとするなど、授業時間を確保するため」と説明したことが5月30日付東京新聞で報道されています。

- ① 吉川市はこの調査に参加する計画でしょうか。
- ② いつ、どのような会議で、どのような検討を経て決定したのかを教えてください。
- ③ 硬筆展審査会、市内音楽会、発明創意くふう展、市内陸上大会、英語弁論大会、部活の大会、運動会、遠足、修学旅行などの学校行事についての、今年度の方針と検討の経過を教えてください。
- ④ 文科省の学校再開ガイドラインでは、2か月間の休校にも関わらず、今年度の学習について「できる限り遅れを生じることがないように」求めています。教育基本法に定める教育の目的「人格の形成」が蔑ろにされてしまう可能性を危惧しています。今年度、どのように「人格の形成」を重視した教育活動を行っていくのか、考えをお聞かせください。

答弁を求める者：市長・教育長・担当部長

回答

1 この調査に参加する計画について

本市では、6月30日に小中学校全校一斉で行うことになっております。なお、埼玉県学力・学習状況調査は、62市町村のうち58市町村で実施すると確認しております。調査により、昨年度1年間の「学力の伸び」の把握、質問紙調査による臨時休業中の学習習慣や生活態度の変化等の分析・把握に努めてまいります。

2 どのような検討を経て決定したのかについて

調査を行うことの効果等を教育委員会内で確認・検討し、決定した事項を校長会において指示いたしました。

3 学校行事についての、今年度の方針と検討の経過について

既に硬筆展審査会、市内音楽会、市内陸上大会、英語弁論大会、部活の大会等は中止を決定しております。

また、発明創意くふう展、運動会につきましては、現在未定となっております。

なお、遠足につきましては、各学校での判断により実施となっており、修学旅行につきましても、各学校の判断により延期もしくは中止となっているところがございます。

4 人格の形成を重視した教育活動について

授業や学校生活を通じて人格を形成することが学校の使命であると捉えております。学級を母体とした人間関係づくりをおこない、子どもたちの変化を見逃さず、一つ一つ丁寧に対応することを心がけ、まずは担任との信頼関係を築くことから始めてほしいと各校長に指示しております。

このような誰も経験したことのない事態を子どもたちが経験したことで、自ら考える力の育成につながったことも考えられることから、臨時休業という学校教育のピンチも児童生徒の成長を促すチャンスととらえ、健やかな人格形成が図れるよう学校と連携を図り、教育活動の充実に努めてまいります。

担当：教育部学校教育課

質問

質問事項3：演劇プロジェクト、今年度も実施するのでしょうか

質問要旨：

5月号の広報では、第4回演劇プロジェクトオーディションの募集と同時に、今年度の講演会の詳細が発表されました。緊急事態が解除されたとはいえ、感染症の問題が収束したとは言い難い状況の中、先行きの見通しが立たず多くの団体が今年度の様々な企画を断念しています。特に公演日程としている12月には、新たな感染の波の到来を予想する専門家も多くいます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活が困窮する市民・事業主が多くいる中で、演劇に多額の税金をつぎ込むことに違和感があるとの声が多くから寄せられています。

- ①広報5月号が編集された時点では、緊急事態宣言発令などのこの間の展開は予測できなかったものと思われます。現時点で、今年度の演劇プロジェクトについてどのように考えているのか、検討の経過も含め教えてください。
- ②演劇には人を励ます側面があるとは思っています。しかしながら、感染予防に向けて三密を避ける、飛沫を飛ばさないための工夫、ソーシャルディスタンスなどが強く求められる中で、演劇の練習が本当にできるのかどうか疑問です。見解をお聞かせください。
- ③プロジェクトをスタートさせた後に、公演できない事態に陥った場合、多額の税金が水泡に帰すのではないかと懸念します。考えをお聞かせください。
多くの市民から寄せられる「違和感がある」との声を、どのように受けとめますか。

答弁を求める者：市長・担当部長

回答

これまで3回の演劇公演を上演してきたところ、参加者をはじめ、市内外からの観覧者や演劇関係者の方々から一定の評価をいただき、また、市民意識調査の「芸術文化に触れ合う機会に関する満足度」では、30%台であった評価が50%台中盤を維持するなど、文化芸術振興に大きく寄与しているものと考えております。

このような中、演劇プロジェクトに対するご寄附をいただく機会が増えたことから、先の市議会定例会において「文化芸術振興基金」をご提案したところであり、基金の設置は叶いませんでしたが、その寄附金で全てをまかなえるまでになっており、寄附者の意向等を踏まえて事業に取り組んでいるところでございます。

令和2年度の演劇プロジェクトにつきましては、広報よしかわ5月号において、演劇プロジェクトの参加者を募集させていただいたところではございますが、広報原稿を編集していた3月中旬には、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めていたことから、応募者面談の日程を当初の予定から1カ月半遅らせ7月下旬とし、広報したところでございます。

現時点につきましては、感染者数の推移や国の動きなどを注視しながら、参加者の安全を最優先とし、中止を含めて検討しているところでございます。

担当：教育部生涯学習課